

レールライフ実践人 vol.6 「移動をもっと楽しくしたい 明石あおいさん」



レールライフ実践人では、公共交通を活用して「かしこいクルマの使い方」を実践している人々をご紹介します。

第6回目は Worldly Design 代表取締役の、明石あおいさんにお話を伺いました。



お仕事では「せけんをデザイン」しているという明石さんは、様々な地域に足を運んで丁寧に見聞きしたことをもとにしたプランニング、グラフィックデザイン、人材育成などを行っています。驚くのは、地域への移動手段の多くが公共交通だということです。

移動の楽しみ方を熟知した明石さんは、言わばレールライフの達人でした。



■富山から東京、いきなりの東北暮らし

「高校までは富山で暮らしていました。

進学時に家を出て東京に行き、大学の勉強以外にデザインを学んで、将来は何をしようかなと色々と考えていました。

紆余曲折があったのですが、縁あって東京で地域づくりの会社に就職しました。

就職してすぐの仕事で、東北のある町へ行ったんですが、

いつの間にかそのまちで勉強も兼ねて暮らすことになっちゃったんです。

一旦東京に戻って、社長に東北に住むことになっちゃいましたと報告して

結局2か月程暮らし、本当に沢山のことを学びました。

東北でも、会社でも、大学時代もそうでしたが、移動はほとんどが電車やバスです。

あたりまえのように公共交通で移動していました。

東北のローカル線に乗っての移動は楽しかったです。」

「高校時代も電車通学だったけど、遅くなったときは車で送って貰いました。

たまに、わざと電車に乗り遅れて、友達にも声をかけてみんなで乗って通学するんです。

富山の人ならみんな経験ありますよね(笑)

あの頃は富山のことが好きじゃなかったんです。卒業したらとにかく外に出たかった。」



丸の内電停で熱心なカメラマンを発見。
明石さんはこういった光景が大好きなんだそうです。

■移動を楽しむ

「東京に行ってからあたりまえに公共交通を使うようになり、
どこかへ行くときはまず公共交通を選ぶようになっていました。

電車にさっと乗りこんだら、車窓を楽しんで、色々なことを考えたりしている。
読書とかをすることはほとんどないです。

あ、東京の時は電車が混雑していたせいで
本にでも没頭しないとおかしくなりそうだったから読んでいたかな。
あと、東京は地下を走る路線が多くて景色が見えないのも駄目でした。
こっちなら自然の風景が目に入るし、四季を感じて楽しめます。
富山の路線は車窓がすごく綺麗だから、見ないともったいないです。」

「どこかのまちへ行くときには、そのまちの公共交通に乗るのが一番いい。
どんな人が乗っているのかなって観察したり、
車窓から面白そうなものや目を引くものがあると何か思いつくことがある。
ボックス席の向こうから、おばちゃんとか高校生とかの話が流れてきますよね。
ああいうのも大好きです。つい耳を傾けてしまいます。
そこのまちの暮らしが垣間見えるのが楽しいです。」

「移動するときには観光客のような目線で色々なものを見ているんです。
見えるもの全てが興味深いし面白いですよ。
地方や富山での移動は、移動そのものを楽しんでいる感じです。」

■移動で切り替わる心持ち

「ある地域で年に一度開催されるお祭りのために、
小さな駅に降り立って一日に何本も無いようなバスに乗って移動していくことがあります。
バスに揺られて風景を眺めているうちに、ああ去年も来たなあとか、
お祭りではこんなことがあったな、と思い出してくる。

目的地に近づく頃には去年の空気感を取り戻していて、
去年参加したときのテンションにすっかり切り替わっている。

きっと、車ではこうは行かないと思うんです。
電車とかバスのスピード感でないと、こうはならない。
市電のスピードもとてもいいですよ。
車窓からまちや人を眺めては色々な発見があります。」

「だから、仕事で何う際にはとにかく駅まで公共交通。
駅からの移動手段が無いときには相手先の方々に迎えに来て頂くこともあります。」



■普段の移動

「会社が中央通りにあるので、普段の移動にはシクロシティや市電を使っています。
家族で1台車を持っているので、雪の日には一緒に乗せてもらうこともあります。

シクロシティはタクシーよりもずっと速いし便利なので、もっと範囲を広げて欲しい。
自転車から見るまちも色々な発見があります。

ただ、冬に歩道が凍ってくると乗るのが怖い。
スパイクタイヤとかにならないんですかね(笑)

といつつ、カードを紛失してしまったので今は乗れないんです。。。」

「出来るだけ公共交通で移動するようにはしていますが、
朝早くに着かなければならない時などどうしようもないときは、車で送ってもらうことがあります。
夫には本当に助けてもらっています。

そんな時のために運転免許を取りに行っただんですが、試験が受けれてないんです。
車があれば出来ることや行ける場所が増えるのは間違いないので
公共交通を使うのはもちろんですが、それなりに車を使うとも思っています。」

■まずは公共交通

「遠方から友人が来たら、まずは公共交通に乗せています。
富山は全国的に話題になっているので公共交通そのものに興味があるから来ている人も多いんです
が、
初めてのまちの姿がよく分かるし、それぞれが見るところが違ったりして面白いです。
会話も自然と弾みます。」

■富山の人は「飲み会の楽しみ」を知らない！？

「そういえば、東京では仕事を終えて会社を出て駅まで歩くうちに
「ちょっと飲んでいきませんか？」というようなことがたくさんありましたね。
飲み終わって駅までの道のりに、職場ではあまり話せない方と横に並んで歩いて話すこともありました。

心理学的にも立証されていることですが、
面と向かって話せないことも横に並んだら話しやすいんです。
横に並んだひとときに、すこし距離が縮まるが多かった気がします。

車だどうしても、お店集合、お店解散になってしまいますよね。

会社を出るときもばらばらになってしまう。

歩けないと距離を縮めるタイミングが中々無いですね。

飲むときにも歩いて行かないから、まちを歩く人が少なくなってしまいなんとなく寂しく感じます。

まとまって練り歩く人たちは富山では中々見れません。

みんな、たまには車を置いてお酒を楽しめばいいのになと思いますね。」

■移動を楽しくしたい

「電車でどこかの駅まで行っても、そこから目的地までの移動手段がわからないという話をよく聞きますが、調べたり実際に行ってみると意外とあるんです。

車に比べたら不便かも知れないけれど、大抵の場所には行けます。

だから駅からの二次交通が「意外とある」ことが、みんなに分かるようにしたい。

移動が楽しいし、もっと楽しくしたいと思います。」



城址公園と明石さん

■好きな場所

「城址公園前の交差点でぐっと曲がるセントラムからの車窓が好き！

セントラムの窓からお城がばーっと広がって見えて、

ダイナミックに車窓が変化するところが良いです。

富山大橋から見える立山連峰もいいなと思います。

折角の景色をもっと楽しめるような計画が出来ればいいのに。

富山地鉄の稲荷町駅はプラットホームが木製なんです。あれもすごくいいですよね。」

【最後に、明石さんの好きな場所の1つ、城址公園へ移動してお話を伺いました】



「たまに会社前の仲間とこの広場に集まって、色々な話をしています。

丸の内の電停に集合して、ピクニック的な気分で計画とかを語っていますが、場所が良いのか楽しい話しかできなくなるんです。

こんなに気持ちいい場所にいたらネガティブなことは思いつかないですよ。

おすすめです。

冬場はなかなか集まれなかったけど、

もう少ししたら暖かくなってくるので、会の再開が楽しみです。」

「富山のこと、今は大好きです。」

■まとめ

公共交通利用の達人、明石さんに教わったのは

- ・観光目線で乗ってみよう

- ・友達も公共交通に乗せてみよう
- ・お酒を飲むときには横にならんで話してみよう

ということでした！

■明石さんについて

様々な肩書きを持っておられる明石さんですが、最新の活動については、以下の HP などに掲載されています。公共交通などの移動中に撮られた写真などもあって、明石さんの視点が垣間見えます。

worldly design

<http://worldly-design.jp/>

itona（第二号を編集中だそうです）

<http://www.itona.net/>

勝手に☆とやまの定住コンシェルジュの Blog

<http://ameblo.jp/te-ju-concierge/>